

V 教職員研修

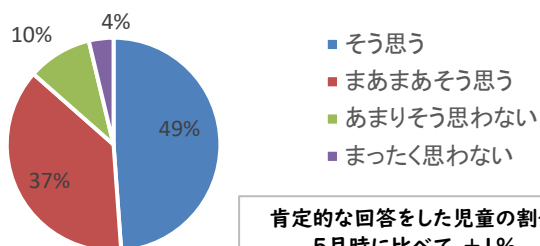
学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	外部評価委員のコメント
授業実践力向上のために教職員研修が活発に行われている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	○若い先生が学校の一員として力を発揮できる環境づくりができています。勢いのある教師集団は子どもたちにもよい影響を与えるので、大いに期待したい。 ○教職員が児童の様々な可能性を引き出し伸ばすことは必然の責務である。教材研究や行事等の事前事後対策など、子どもたちの成長を常に意識して臨んでいただきたい。
	年度	おおむね良好	良好	○幸せな職場、英知を結集している、指導力の伸長をめざす取組、どれも素晴らしい。○○最近「○○が負担」という言葉をよく聞く。管理職やベテランの先生方を中心に、主体性をもっと発揮してほしい、今後も期待したい。それがモチベーションにつながる。 ○横のつながりでグループ研修を実践しているが、縦のつながりも意識した校内体制にも取り組んでみてはどうか。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期（→年度）】 ①昨年度に引き続き算数科を研究教科としているが、児童の実態を踏まえ、今年度は国語科、社会科においてもグループ研修を進めている。授業の中での学び合いの時間「ノベルタイム」では、児童同士で発言をつなぎ合い、課題解決に迫れるよう、教師は発問や問題提起の仕方を工夫したり、必要に応じて介入したりしながら児童の学びの深まりや広がりを目指して取り組んでいる。また、「ジャンプノベルタイム」として発展問題に取り組む時間を設定し、児童一人一人が自己調整力を働かせて、問題の難易度や数、学習形態（一人で、ペアで、グループで）を選択しながら取り組ませることで、知識・技能の定着と、主体的・協働的な学びの実現を目指しているところである。 ②年度初めに、研究・研修部の職員が子どもたちと一緒に提示授業を行い、それを全職員で参観することで、今年度新しく赴任した職員とも本校の授業の流れ「有浦スタイル」についての共通理解を図った。また、これまでに3回の研究授業と事後研究会を行った。事後研究会は少人数グループごとに話合うワークショップ形式で行っている他、会の最後には「明日からこれを実践します」という共通実践事項を全員で決定することで、職員一人一人が次の日からの授業改善に生かせるよう努めている。 ③1学年に複数学級あるという本校の強みを生かし、授業の打ち合わせや研究授業の際の指導案の作成、国語科・社会科のグループ研修、毎学期初めの児童の学び方指導となる「学びのオリエンテーション」などを学年部を中心に実施している。20代の職員が多い学校であるが、学年部を母体とすることで、同じ足並みで授業づくりや子どもたちの指導に当たることができるようにし、チームとして研修を進めていけるようにしている。 ④研究授業では、主に採用1～3年目の職員を授業者とし、教職員一人一人の指導力や授業力の向上を目指している。また、外部講師を招いて研修を行ったり、2・3年目の職員が独自にテーマを決めて研修を進めたりすることで、学校を運営する一員としての意識をもって日々の業務に主体的に参画できるように研修の機会を設定している。			
	【年度（→次年度）】 ①12月に児童を対象に行った「算数アンケート」では、すべての質問項目で5月に比べて肯定的回答率が上がった。算数のみならずどの教科においても、教師一人一人がその時間のねらいを明確にして授業づくりをしていくことができるように、引き続き研修に努めていきたい。 ②学年ごとのグループ研修では、一つの単元について協働的に教材研究を行い、授業実践を行うことができた。同じ学年部の複数の職員で授業づくりについてじっくりと話し合ったり、よりよい授業づくりを目指して改善を図ったりすることができた。次年度も全体研修とグループ研修とを効果的に両立させて実践していけるように、実施時期や学年部内での役割などについて検討し、見通しをもって計画、提案していきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
11 教科指導力の向上	(15) 授業改善・指導スキルの充実	課題解決場面をファシリテートする力	3.5	3.7
		提案授業等の「授業を学ぶ機会」の設定		
12 研修の充実	(16) 組織力と教員個々のキャリアアップに資する校内研修の推進	学年部が主体となった指導案の共同作成、学び方指導の実施	3.4	3.7
		若手教員の育成を軸にした校内研修の実施		

2学期末に2～6年児童に実施した算数アンケートの結果より（一部抜粋）

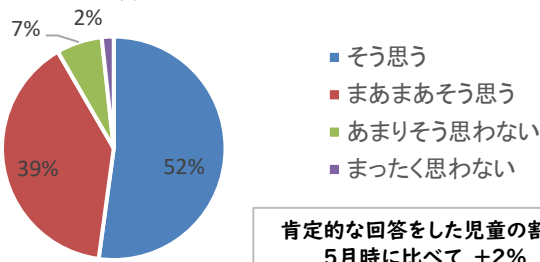
（5月には1年生へのアンケートを実施していないため、2～6年生の結果のみ比較）

1. 算数の勉強がすきだ



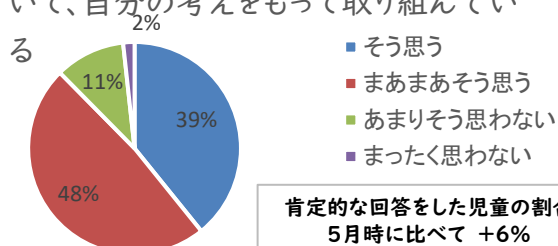
肯定的な回答をした児童の割合
5月時に比べて +1%

2. 算数の勉強がよく分かる



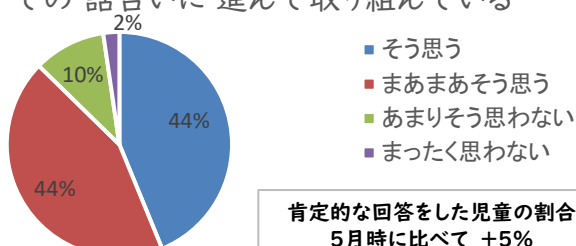
肯定的な回答をした児童の割合
5月時に比べて +2%

3. 算数の授業では、課題やめあてについて、自分の考えをもって取り組んでいる



肯定的な回答をした児童の割合
5月時に比べて +6%

4. 算数の授業では、ペアやグループでの話し合いに進んで取り組んでいる



肯定的な回答をした児童の割合
5月時に比べて +5%

グループ研修についての職員アンケートの結果より

【成果】

- 社会科の授業に苦手意識があったが、いろいろな先生方からアドバイスをいただいて、自分の引き出しが増えた。
- 「自分だったら」という視点ももちながら、授業者の思いに沿った授業づくりに向けて検討を重ねることができた。
- 他クラスで先に授業を行ってくれたおかげで、自分のクラスで授業をするときに生かすことができた。学年部全体で、単元のことを話し合えたのは、見通しがもちやすく、授業のイメージができた。
- 学年全体で研修できるのは、有浦小のように学級が

【課題】

- 授業日の設定が難しかった。他の学級とも実施時期に差が生まれてしまったため、同じ歩調で進めていくのが大切だと感じた。
- グループ研修が11月に多かったように思う。なかなか他の授業を見に行くことができず、残念だった。
- それぞれの学年部の構成が違うので、役割を割り振りできる学年部とできない学年部があるのではないかと考えた。
- 来年度、同じような研修があるのであれば、行事と単元とでしっかりと計画を立てて時期を提案したい。

教科担任による6年外国語科研究授業及び授業研究会の様子

